

# 25年センター試験「地歴」「公民」 の問題冊子、“合冊”化へ！

「地歴」と「公民」、出題教科としては“別教科”。  
セ試“出願時”では、[地歴、公民]“1教科”扱い！

旺文社 教育情報センター 24年6月1日

24年1月に実施された24年センター試験(以下、セ試)では、「地理歴史」(以下、地歴)と「公民」の問題冊子の配付ミスなどが相次ぎ、「本試験」受験者3,000人以上が「再試験」対象者になるなど、大きな混乱を招いた。

過去最大級のセ試実施トラブルとなったことを受け、大学入試センターと文科省はそれぞれ検証委員会を設置し、先頃、トラブルの検証と再発防止策などを各『検証報告書』にまとめて公表。配付ミスの再発防止策として、「地歴」と「公民」の問題冊子の“合冊”化などを提言していた。

## <「地歴」「公民」の問題冊子の形態>

- 今回のトラブルでは、試験枠[地歴、公民]の「2教科受験者」(地歴1科目+公民1科目)に「地歴」と「公民」の問題冊子を“2冊同時”に配付せず、いずれか1冊のみの配付で試験を開始するなどのミスが続出した(69大学・98試験室<試験室総数の1.0%>の受験者3,452人<「本試験」受験者の0.7%>)。

大学入試センター及び文科省の『検証報告書』では、「地歴」と「公民」の問題冊子がそれぞれ分かれていたこと(2分冊)、問題冊子の配付が複雑であったことなどが配付ミスに繋がったとしている。

そのため、各『検証報告書』は配付ミスの再発防止策として、問題冊子の“合冊”化を提起している。合冊化の形態については、“1冊にまとめる”ほか、“パッケージ”化(袋詰めなど)して2冊の問題冊子を一律に全員に配付する方式などが考えられるとしている。その際、受験者にとっての扱いやすさなどを十分に考慮して決めるべきだとしている。

また、合冊化は、配付ミスの再発防止に寄与するとともに、実施方法の簡素化、試験開始前の準備時間の短縮化にも有効であるとしている。

- 大学入試センターのセ試実施大学へのアンケート調査(回収大学519校。短大含む)では、配付ミスの再発防止に向けた問題冊子の形態として、約6割の大学が「合冊化」を回答、特に配付ミスをした大学(69校)では8割に達している。

- 大学入試センターでは、各『検証報告書』の提言やアンケート調査結果、関係団体等のヒアリング等を踏まえ、25年セ試の「地歴」「公民」の問題冊子の“合冊”化を固めた。

「地歴」「公民」2教科の問題冊子(24年セ試：B5判、「地歴」176ページ+「公民」136ページ→312ページ)を“1冊”にまとめるのか、“パッケージ”化(袋詰めなど)にするのかなど、具体的な形態については現在、検討中のようだ。

## <セ試[地歴、公民]における“教科”の扱い>

### 1. 大学のセ試利用教科・科目について

各大学における「セ試利用の教科・科目」については、「地歴」と「公民」を合冊化してまとめても、「地歴」と「公民」は“別教科”扱いとなる。

これは、試験枠を統合した24年と同じ扱いで、学習指導要領上の“教科”に準じている。

### 2. セ試出願時における[地歴、公民]の“教科数”の扱い

「地歴」と「公民」の合冊化によって、試験枠[地歴、公民]の受験者に一律、同じ問題冊子(合冊)を配付することになるため、“教科区分”の事前登録は必要なく、[地歴、公民]受験者(1教科、2教科受験含め)の“教科数”は全て“1教科”扱いとなる。

“受験科目数”(1科目、または2科目)については、受験科目数に応じて事前登録する。

なお、セ試の受験“教科数”によって、「検定料」が異なるので、注意が必要である。

因みに、2教科以下受験=12,000円(成績通知希望は12,800円)/3教科以上受験=18,000円(成績通知希望は18,800円)である。

## <問題冊子の合冊化と「事前登録」>

- 上記のセ試出願時における[地歴、公民]の“教科数”の扱いについては、次のような大学入試センターと文科省の『検証報告書』の言及に基づいていることが伺える。

### ◆大学入試センター『検証報告書』

(合冊化は)受験者の側にとっても、出願時の事前登録は「地理歴史、公民」の受験登録と、「地理歴史、公民」の試験時間帯で受験する科目数(1科目または2科目)を登録するだけで済むこととなる。

### ◆文科省『検証報告書』

合冊化が実現すれば、受験者にとってみても、事前登録が必要な事項は地理歴史及び公民のうちから1科目を受験するのか2科目を受験するのかの登録のみとなり、センター試験の出願時に出願大学の範囲が制約される可能性を低減することができる。

(注. 枠囲みの文中、太字と下線は当方で付記)

### < 25 年セ試の「試験時間割」>

- 両『検証報告書』では、ミスの未然防止を図る観点から、セ試の「試験時間割」等についても検証している。

大学入試センターの検証委員会では、[地歴、公民]の試験時間帯を別の時間帯や第2日目に移動するなど複数の案について検討したという。

しかし、地歴、公民の問題冊子の合冊化を前提とした場合、現行試験時間割より明らかに改善される案を見いだすには至らなかったという。

当検証委員会は、各科目の予想される受験者数、受験しない教科がある場合の受験者の待機時間等、様々な事情を総合的に勘案したうえで、さらに大学入試センターにおいて検討することを期待するとしていた。

- 大学入試センターでは検討の結果、25 年セ試の「試験時間割」は 24 年セ試と同じとし、25 年 1 月 19 日(日)・20 日(日)に「本試験」が実施される。

ただ、今回のトラブルでは、試験開始前の試験監督者から受験者への説明や指示が長引いたりして正規の時刻に試験が開始できず、試験開始時間 10 分以上繰り下げの影響が 4,053 人もの受験生に及んだ。

こうした実態を踏まえ、試験当日の「説明時間」を短縮する観点から、検証委員会では『監督要領』(200 ページ以上)のスリム化とともに、平易で明確な記述を求めている。